

◎ 本会の動き ◎

☆平成26年度部会活動功労賞(部会CT賞)☆

[部会CT賞表彰にあたって] (増田隆夫 部会CT長)

化学工学の学問は医農薬製造、化学産業、金属精錬、材料製造、エネルギー等に留まらず熱・物質移動、物質変換、システム設計などをともなう全ての分野で必須となっています。そして、社会と産業の動向にあわせて、基盤となる学理からプロセス開発まで研究者が活動する分野が多岐に亘り細分化されてきました。そこで、化学工学会では、関連する分野について専門家のコミュニティーを形成して情報の共有化と連携を進めることで研究活動をより効率化するため、平成14年より部会制が導入されました。本年度で12年が経過し、14部会が設立されて化学工学会の様々な学会活動を支えています。また、各部会が対象とする分野は広いいため、その細分化に対応すべく部会内に複数の分科会が立ち上がっています。部会や分科会は独自、あるいは他部会も含めていくつかの分科会と共同して、国際会議や秋季大会のシンポジウム、講習会あるいは講演会を企画・運営・開催することで、産学官の研究者・技術者の情報交換や教育の場が提供されています。これら部会の活動は部会員の皆様の努力により支えられておりますが、特に若手会員の不断の貢献に因るところ大なるものがあります。この貢献に少しでも報いるべく平成22年より部会活動功労賞として部会CT賞が設けられました。

今回は5回目の表彰となりますが、企画、運営などの部会活動の活性化に大きく貢献された以下の2名の方を受賞者として選ぶことができました。受賞者への表彰は、平成27年3月に芝浦工業大学で開催されました年会の懇親会会場において行われました。受賞者のこれまでの献身的な貢献に感謝するとともに、今後も部会を始め化学工学会の活動にご支援いただきたくお願い申し上げます。

この度、受賞されました2名の方に心よりお祝い申し上げます。

1) 題目: 「粒子・流体プロセス部会関連国際シンポジウムの立ち上げおよび運営に関する顕著な貢献」

藤岡 沙都子 氏(粒子・流体プロセス部会)

粒子・流体プロセス部会、気泡・液滴・微粒子分散工学分科会では、2011年10月に国際シンポジウムMMPE (1st International Symposium on Multiscale Multiphase Process Engineering) を金沢にて開催しました。このシンポジウムは、1988年に始まり2006年までに7回開催された日独気泡塔シンポジウムを、日独の若手研究者が中心となってシンポジウムのコンセプトから運営方法までを見直し、一から作り上げたものです。藤岡氏は、この準備委員会の委員として活躍し、特にドイツ側との事務的な交渉をすべて引き受けるとともに、その後のMMPE実行委員会でも Secretariat とし

て国内外の参加者との事務連絡をこなし、シンポジウムの成功に多大な貢献をしました。2014年9月にドイツ・ハンブルクで開催される第二回MMPEにむけても藤岡氏は日本側事務局としてドイツ側との連絡をとり、さらに2017年に日本で開催予定の第三回MMPEの準備委員としても現在精力的に活動を行っています。以上のようにMMPEのドイツ側実行委員長のSchlüter教授の評価も高く信頼も厚いことから本国際シンポジウムの成功に欠かせない人材です。

藤岡氏はまた、2012年4月より粒子・流体プロセス部会、気泡・液滴・微粒子分散工学分科会の幹事を務め、分科会の活動を支えています。気泡・液滴・微粒子分散工学分科会は、粒子・流体プロセス部会の5つの分科会のうちの1つで、2009年に気泡塔分科会を引き継ぐ形で発足しました。分科会では化学工学の粒子・流体プロセスの分野で非常に重要な分散工学を対象として、様々な活動を行っています。特に、年会および秋季大会の初日の夕方に行われる気液固分散工学サロンは、毎回、興味深い研究を行っている企業または大学の研究者を招いて講演会を実施していますが、藤岡氏はこの企画を庶務幹事として支え、講演会場や懇親会場の手配、会計処理など、裏方として活躍しています。また、分科会が主催する秋季大会シンポジウム「気泡・液滴・微粒子分散工学2012~2104」のオーガナイザーとして、プログラム編成や招待講演者への庶務等も務めました。

以上の活動は、気泡・液滴・微粒子分散工学分科会のみならず、学術的・技術的に深く関係している構成分科会を含めた粒子・流体プロセス部会全体の活性化に大きく貢献するものです。

さらに、粒子・流体プロセス部会では若手・女性育成プロジェクトとして、毎年、工場見学や交流会を実施しています。2013年12月には綜研化学狭山事業所で交流会が開催され、藤岡氏は若手女性研究者の代表として、講演会の講師を務めました。研究だけでなく、このような部会の人材育成の活動にも積極的に参加し、粒子・流体プロセス部会の発展、特に若手や女性研究者の意識高揚に貢献しています。

藤岡氏は、国際シンポジウムにおいて発揮した事務能力および調整能力は卓越しており、上記のようなこれまでの粒子・流体プロセス部会への貢献実績とともに、今後の粒子・流体プロセス部



右：藤岡沙都子氏
左：増田隆夫部会CT長

会の国際的な活動への貢献も大いに期待されます。

以上の理由により、部会CT賞の受賞に相応しいと認められました。

2) 題目：「国際会議の運営および分科会活動を通じた部会会員増強における顕著な貢献」

青木 宣明氏 (反応工学部会)

青木氏は2010年3月8～10日の3日間、京都市サーチパークにおいて開催された、IMRET11 (11th International Conference on Microreaction Technology) において、2008年12月の準備の開始当初から、会議の運営全般の中心となり精力的に活動されました。IMRETは、微小空間を活用した反応場の研究・技術に関する会議であり、これまでドイツ化学工学会 (DECHEMA) と米国化学工学会 (AIChE) が中心となり、欧州と米国で交互に開催されてきましたが、IMRET11は欧米以外で開催される初めての会議として大変意義深く、日本で開催するにあたり化学工学会が主催することとなりました。実際の運営は、反応工学部会マイクロ化学プロセス分科会のコアメンバーを中心に行われ、青木氏はその中でも早くからその準備および終了後の事務整理まで精力的に活動されました。

特に、本会議の庶務のサポートおよび広報も青木氏が中心となって進められました。国際会議の英語Webサイトの作成、運営も青木氏が担当されました。準備を開始したのがリーマンショック直後で世界的に不景気に入る時期であったため、参加者を集めるために運営コストを下げて参加費を抑える、という基本姿勢ではありましたが、アジアでの初開催で参加者が集まるか不透明だった部分も懸念されました。このため、Webサイトの制作コストを下げるために、参加・宿泊登録と要旨のアップロードページ以外は青木氏がゼロベースから企画・構築され、また、会議の準備の進行に合わせたWebサイトの更新も丁寧に実施されました。広報活動は関連学会においてビラやCircularを配布したり、関連講演会への参加者にメールを送信したりするなどされましたが、Circularの作成や印刷も運営コストを抑えるため外部業者に発注せず、青木氏が中心となって所属研究室にて製作されました。(この経験は後述するマイクロ化学プロセス分科会の正式HP、準公式HP (Facebook) の充実にもいかに発揮され、分科会活動の広報、会員相互の情報交換および会員外からの関心を集めるに至っています。)

IMRET11は、初めてのアジア圏での開催でしたが、広報面および運営面・経費面の努力により、最終的な参加者数(招待者を除く)は321名(国内203名、海外26カ国118名)となり、予想を大幅に超える盛会となり、全世界に向けて日本の当該分野のアクティビティの活発さをアピールすることにも大いに貢献しました。講演件数も一般191件、招待6件の計197件と予想を超える過去最大規模での開催となりました。当初に立てた計画の日程や会場案を大幅に変更することになり、運営の中心にあった青木氏の作業量も多大なものとなりましたが、参加者には大きな満足を与えました。

会議期間中、関連するハードウェアの展示の場を設定し、13社(内

4社は海外) 14口のブース展示の申込をいただき、これもまた盛況となりました。展示の申込書の作成から、受付や会場設営の臨機応変な手配も青木氏が担当されました。

最終的には大幅な黒字で会議を終えることができ、青木氏の活発かつ献身的な運営活動が、分科会・化学工学会に大きく貢献しました。

また、2012年3月から2014年3月まで青木氏は反応工学部会マイクロ化学プロセス分科会の会計幹事として、運営の中心メンバーとなって活発に活動されました。青木氏の役割は会計担当ですが、さらに分科会の広報にも多大なる貢献がありました。当分科会では広報・情報発信の場として、化学工学会のサーバーに設置した公式HPの他に、準公式サイトとしてfacebook ページ <http://www.facebook.com/scej.org.cre.mcp> を開設する新しい試みを行っています。このページは一般の方にも気軽に分科会活動に接する機会をもっていただき、部会ならびに分科会への入会を促す目的もあります。青木氏はこのページにマイクロ化学の基本原則の情報および分科会の活動内容をまとめた動画を提供し (<http://youtu.be/JDZrxIE6jhY>: 2012年版, <https://youtu.be/uNh5yNrXu1A>: 2013年版, PDF版は公式ページのトップページにも設置している http://www2.scej.org/cre/mcp/data/data_2012/2012_END.pdf), facebook ページの運営にも精力的に貢献されています。これらは、他の学会も含めて例が少ない、ユニークで先駆的な広報活動であり、今後の発展にも大いに期待されるところです。また、当分科会では会員への情報発信を強化し、分科会への入会による価値をより一層実感していただけるようにするため、ニュースレターを2012年度から発行しており (2014年4月時点で全10号を発刊)、facebook ページに提供した内容は創刊号の内容の一部にもなっています。このような活動を通じ、マイクロ化学プロセス分科会会員、そして分科会入会を通じた反応工学部会会員の増強にも貢献してこられました。さらに、2013年夏には分科会討論・交流会において企業若手技術者に対してマイクロ化学プロセスのチュートリアルを実施し、マイクロ化学プロセス技術の普及にも努めておられます。

以上の理由により、部会CT賞の受賞に相応しいと認められました。



右：青木宣明氏
左：増田隆夫部会CT長